

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170502777), 法人名 (社会医療法人 共栄会), 事業所名 (認知症対応型共同生活介護 グループホームまいホーム川下1階), 所在地 (札幌市白石区川下574番地61), 自己評価作成日 (令和5年10月15日), 評価結果市町村受理日 (令和5年12月18日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、周辺に川下公園や八幡宮神社・厚別川があり、住宅街から少し離れた閑静な場所にある為自然豊かで、遠くには山並みが見られ景観も良い場所にあります。また同一法人が運営する病院・デイケア・介護老人保健施設が敷地内にあり、療養寮とも併設しており、医療面や災害時など迅速な対応が出来る。中庭やホーム裏には花畑があり、花壇を楽しんだり、畑作業を楽しんだりしています。今年は何年ぶりに夏祭りも開催されてとても喜ばれていました。献立は、季節の物や誕生日などを取り入れたり入居者様の希望を聞いて作成しています。ここ数年は、感染対策にも重点を置き広げられない様取り組んでいます。入居様・ご家族様には安心して穏やかに生活出来る様心がけてサービスを提供しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JisvosvoCd=0170502777-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和5年11月22日)

事業所は平成16年に3ユニットで開設し、広大な敷地内には母体である医療機関を始め各種の介護施設が設立され、受診時に売店に寄り買い物やデイケアに通って専門的なりハビリを受けるなど、健康管理や身体機能維持等が図られ、また、災害時においても協力体制が築かれている。町内会や地域包括支援センター、行政機関等も心強い存在で、情報や助言、協力が得られている。家族とは短時間ではあるが玄関での面会が再開され、また、地域とも法人や地域の祭り等にも参加交流があり、利用者の顔がほころぶ場面となっている。理念は「やすらぎの環境を実現 そして個人の尊厳をめざして」を掲げ、管理者始め職員は実践に取り組み、利用者にとって心地良い環境作りを努めている。散歩がてら、畑のジャガイモやミニトマトなど数種類の野菜や花壇の花々に水をやり成長を眺め、収穫した芋で肉じゃがを作るなど、利用者のペースを大事にしている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service results and self-evaluations.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時からの理念を受け継いで新入職員には理念の説明を行う、出来る範囲で理念に沿ったケアを心掛けている。	事業所理念を具体的に表した4項目と共に事業所内に掲示し、さらに名札の裏面に入れて常に見ることで意識化に繋がっている。職員は、会議等で理念が実践できているかを確認し、管理者は、理念はケアの原点であることを説明している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	今年5月よりwithコロナになり、7月に共栄会の夏祭り行い、ホームでも参加、また川下の地域のお祭りに参加	コロナ禍の中でも町内会長から随時地域情報が得られ、法人や町内会の夏祭りに相互の参加があり、久し振りの賑わいを見せている。事業所周辺の清掃は職員が行うなど、地域の一員としての認識を持って行動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年から再開した夏祭り等を通じて実際に共有して楽しんで頂いたり、運営推進会議で発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では町内会長、包括支援センター職員に来て頂き、勉強会や現況報告行っている。	会議は短時間で開催しているが、家族には、感染症予防対策として参加を要請していない。利用者や職員の現状、各ユニットの近況報告、事故やヒヤリハットの公表等に対して、町内会長や地域包括支援センター職員には、事業所への理解と共に意見や情報が得られている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議に参加して頂き、地域の状況が良く分かり、お祭りに参加できた。	良好な運営に繋がる行政との連携に努めている。殆どは管理者がアンケート提出や疑問点などの相談を行っている。状況によっては、法人の役職者が集団指導等を受け情報を共有している。運営推進委員でもある地域包括支援センター職員から、各種の情報が得られている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご家族と入居者さんに説明し不審者対策の為、集合玄関を施錠して。3か月に一度の委員会を行い、日頃のケアが身体拘束につながっていないか具体例をあげて確認している全スタッフが年2回、新規採用時に身体拘束の勉強会、アンケート記入を行っている。	職員は、身体拘束廃止を基本としてケアに臨んでいる。指針に基づき、3か月ごとの適正化委員会で正しい理解の周知徹底を図り、また、年2回の研修会後は、アンケート提出で理解度を確認している。センサーの使用や玄関の施錠は、家族の同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全スタッフが高齢者虐待の勉強会をし、支援する側される側に上下関係が生じないように意識している。不適切なケアの事例をもとにホームでも日頃のケアが相手の尊厳を傷つけていないか確認し合う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全スタッフで権利擁護についての勉強会を年に1回行っている。希望者には外部研修の受講をしている。現在制度を利用している入居者さんはいないが、必要に応じて利用する事になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学の時など、利用者、ご家族の話をよく聞き、不安、疑問に対応している。一度では分からない事が多く電話などで対応フォローしている。契約の際も十分な説明に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族さんの意見を聞き毎月のお便り、写真等でホームの状況を報告。又、5月より制限がありますが、面会を再開しています。	家族には、毎月写真掲載の事業所たよりと年6回の運営推進会議録で、利用者の日常や事業所の取り組み等を報告し、現状を共有している。要望であった面会は玄関で行われ、外出は食事なしとしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各階月1回位のミーティングを行い職員の意見を聞くように心がけている。個人面談にも努めている。	代表者は、事業所の運営状況を法人関係者からの情報や運営推進会議録等から把握している。管理者は、日々の関わりや年1回の人事考課、都度の面談等で職員の意見や意向を受けとめている。職員の提案で、ミキサー食からきざみ食に変更し、彩ある食事になった事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、人事考課を行っており、その結果を昇給に反映している。勤務状況では残業があまり無く、休暇も取得しやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの能力をとらえるようにしている。コロナの影響もあり、法人外の研修は積極的に行えなかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流の機会づくりが難しくなっている中、同じ共栄会の他のグループホームの職員が手伝いに来てくれ(こちらも手伝いに行った)サービスの維持向上になった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化によって何故ここに来たのか、帰ると訴える方や食欲不振、拒薬等見られる方様々で傾聴して、安心して頂けるよう可能な範囲で希望を聞いている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に見学や面談で不安や要望を聞き入居されて生活に慣れるまでは電話等で様子を報告し関係作りにも努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族の要望、認知症の症状ADL、内科・精神疾患に合わせ、支援する事の話合いを行っている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話をしたりして、時間を共有しており洗濯たみや、袋たみ食器拭き等本人の持つ力を発揮して頂いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人がこのような言動があったと伝え以前の情報やアドバイスを頂き、対応について一緒に考えてもらえるよう努めて			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスが5類感染症になった事を受け、面会時間、人数等制限はあるが、ご家族様の面会に対応している。	面会は、条件を付け玄関で家族や知人と顔を合わせている。窓越しで孫やひ孫と対面が叶った利用者がいる。電話や手紙の取り次ぎ、外来受診後は家族と買い物をして帰ってくるなど、馴染みの関係維持を大切にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の様子から人間関係を把握して妄想や過干渉に配慮しながら、食事席、ソファなどコミュニケーションが生まれるように見守っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に入居者さんのご家族より連絡を頂きその後の経過を聞くことはある、必要があれば支援に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中で本人の希望をお聞きし、欲しいもの、やってみたい事行きたい所を把握してご家族にお伝えしている。	利用者が何を思い何を願っているのかは、関わりの中での言動や個別の記録、家族からの情報をもとに職員間で検討して推し量っている。職員は、思いが叶うようにケアプランの支援目標にするなど、利用者が安心して暮らせる環境を整備している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴シートを参考にし家族、本人からの話を聞き出し生活に反映できるようスタッフ全員で努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	精神状態、申し送り、記録、バイタル、食事を把握して体調をみながらその方に合わせた支援を行う。食事の内容、活動など観察しスタッフ間で情報を共有する。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態や発言、家族の要望など踏まえ、ホームでできる事をミーティングや申し送りなどを利用して意見を出し合っている。ADLの維持につながる介護計画を作成できるように努めている。	ケアプランは、入居時の暫定プラン後は更新時や状態の変化時に策定している。利用者や家族の意向を中心に、日常生活動作の維持を視野に入れて職員間で協議している。介護記録で支援目標の実践をチェックでき、更新時の判断材料になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の記録に介護計画をファイルし実施している体調不良、精神状態の変化で医師に相談。頓服を利用しその後の様子を観察し対応を工夫して申し送り等の時間で情報を共有、検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる範囲で個人の要望に耳を傾け、ニーズの発生があれば管理者に相談して決めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスが5類感染症になった事を受け、町内会や法人のお祭りなどイベントに参加できるよう支援している。外気浴ではホーム裏の畑でトマトやジャガイモを収穫、花をみたり施設周辺の雰囲気を感じて頂けるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内に病院があり、24時間連絡相談ができる。また状態に合わせ必要な医療機関に受診できるようにしている。他科受診では家族の協力を出来る範囲で頂きながらホーム長、スタッフで受診対応している。	利用者全員が、母体である医療機関に外来受診している。眼科など専門医には家族と協力して支援しており、診療結果は関係者と共有している。管理者は看護師でもあり、受診の必要性を医療機関の指示を仰ぎながら判断している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム長、外来看護師へ入居さんの体調の変化など相談し、適切な医療が受けられるよう助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護添書の提出、認知の状態を説明している。病状説明など情報交換を行っている。退院時にはホームでの生活ができるかワーカーより情報を頂き、対応を検討している。家族がキーパーソンとなる場合もあるので情報を頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より重度化した場合の対応(ターミナルは行っていない)指針を説明、同意して頂いている。回復の見込みが無い場合本人の意思を尊重し、入院先の病院と話しあっている。医療が必要になった時点でトロイカ病院に入院すると決めている入居者さん、家族が多い。	重度化における対応と看取りに関する指針に沿って、入居時に説明をして同意を得ている。看取り支援は行っていないが、生活の拠点を移すまでは、職員の心のこもった支援が続けられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルに添い、ミーティング時など利用して確認している。入居者さんに予測される窒息などホースと掃除機をつなげて練習している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回行い(コロナ禍の為ホーム内で最小限)地震、水害の対応については警報が発令された時点で食料品や薬を持ち、2階へ避難するよう年に1回訓練している。	業務継続計画書に則り防災業者の指導の下、夜間想定火災避難訓練を終了し、2回目は夜間時の火災、地震、水害を想定した訓練を予定している。敷地内にある系列事業所や医療機関とは、連携体制にある。	これから予定している避難訓練の実行と、新人職員を含めた全職員が安心安全に避難できる体制作り、避難場所の再確認と家族への周知等、さらなる防災への取り組みに期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した対応に努めている。トイレや入浴時などの声かけ言葉使いに気をつけている。	入浴や排泄、着替え時などは、特に羞恥心に配慮して支援している。理念の中でも個人の尊厳維持を謳っており、職員は実践に努め、個人的な記録の取り扱いも十分に注意して行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を伺ったり表情や言動から何を望んでいるのか思いを探り自己決定できる様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先せず、一人ひとりのペースに合わせその人らしい生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気温に合わせた洋服や着たい服を自身で選んでもらうよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好みにそった食事を提供できるようにしている。洗った食器を拭いてもらったり、下膳してもらったりしている。	時々夕食のみ業者を利用しながら、バラエティーに富んだ料理に乳酸飲料や果物を添えて食卓を彩っている。利用者と畑の芋を掘って肉じゃがを一品とし、季節の行事には一緒におはぎを作ったり、祝いの会では出前寿司などで趣を変えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態に合わせて、水分量、摂取カロリー、食する形態を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行う。義歯は毎晩洗浄・除菌を行っている。定期的に歯科受診している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや行動を見て、トイレ誘導を行っている。失禁状況に応じてパットを使用している。	排泄の自立支援に取り組んでいる。自立者の見守りや声をかけトイレに誘導しているが、夜間のみポータブルトイレを活用するケースもある。布下着の着用を基本とし、衛生用品の使用は必要最小限としており、失敗の軽減や尊厳の維持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から水分摂取量、乳製品提供して便秘予防をしている。それでも滞る場合は処方されている下剤を内服してスムーズな排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、入居者の体調に合わせて入浴している。必要に応じて介助や入浴剤を使って気分転換をはかり、リラックスして入られている。	利用者は、週2回程入浴剤入りの湯船で寛いでいるが、要望で足湯にシャワー浴もあり、浴室や脱衣所を暖めヒートショックに備えている。利用者から歌や昔話、本音を聞くことができ職員の共有としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの居室の空調や温度など安眠しやすい環境に努めている。不眠時は頓服薬も用意されている。日中も休息をとって体調を維持している方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の効果や副作用を理解し用法用量は慎重に取り扱っている。入居者の体調観察をこまめに行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや袋たたみ等、個々に合わせた役割にやりがいを感じて頂けるよう支援している。散歩などの気分転換、売店で好きなおやつ、日用品の買い物を時折行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩の声かけを行い、畑の野菜などの生長を楽しんだり花壇の花を見たりと身近な物を楽しんでいる。	日常的に敷地内で、日光浴を兼ね畑の野菜や花壇に水をやりながら成長を眺めている。近くの公園まで散歩や医療機関への外来受診、デイサービスの通所、地域の祭り見物、買い物など、外出の機会が徐々に増えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の年金や預金などわかる方に関しては、生活用品など必要な物を希望に応じ買い物できる付き添っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば手紙、ハガキ、電話の仲介を行い、家族との繋がりをもち安心した生活が送れる様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾り付けを行ったりスナップ写真を掲示する事で、四季を感じコミュニケーションを図り楽しく居心地のよい空間作りをしている。転倒防止の為、テーブル・ソファの位置に配慮している。	利用者にとって心地良い場所であるよう共用空間も清掃や温湿度、生活音や臭いなどに気配りがある。家具類は動線を確保して設置している。居間の壁面には大きめの時計やクリスマスに因んだグッズ類が飾られており、華やかな雰囲気を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVや音楽を楽しんだり、雑談が出来る居場所づくりの支援をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や飾り、なじみのある家具を使用したりして心地よく過ごして頂く工夫を行っている	居室前には、自室と分かるように表札を掲げている。クローゼットが備えられている部屋には、利用者や家族が持ち込んだ生活用品や写真、利用者の作った制作物などがあり、利用者にとって過ごしやすい環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自身の部屋がわかるように自室前に表札を出したり、安全な移動ができるよう、大きく場所の表記をしたり工夫を行っている。		